わがまちの環境を考える

問 環境課環境G ☎029-298-1111

温室効果ガスの排出による異常気象の現状

執筆：環境省　環境カウンセラー　勝井明憲

▪2021年気象統計が伝えること

2021年の水戸市の気温は、年間を通して気温の高い日が多く、気温30℃以上の真夏日が32日間あり、年平均気温は15.0℃となりました。水戸気象台が気象観測を開始した1897年から平均気温も真夏日も長期の増加傾向が続いています。

この傾向は、全国153観測地点でも観測され、22地点の観測地点では、観測開始以来最高の年間平均気温を記録しました。

▪気候変動が世界中で異常気象を発生させ、さまざまな気象災害を引き起こしている

世界では、アメリカ南西部のアリゾナ州フェニックスでは記録的な少雨で、50年に1回以下という極端な乾燥となり、最高気温約47.8℃が観測されました。また、カナダ西部のリットンでは49.6℃、イタリア南部シチリア島では最高気温44.4℃を観測しています。

さらに、ヨーロッパ中部、特にドイツ西部では大雨により、広範囲で洪水が発生するなど、異常気象は今や世界中で毎年のように起きています。

▪温室効果ガスの排出量を抑えることに積極的に取り組む

異常気象は、温室効果ガス排出量の増加に伴う気候変動が、主な原因と考えられており、地球の気温が上昇することで、海や地面からの水蒸気量が増加し、豪雨が発生するなど、過去に経験したことのない気象現象につながります。

気温上昇幅は、すでに約1.1℃を越えており、人間の活動が引き起こした気候変動による気温上昇が続いています。

私たちは、パリ協定の目標レベル2℃を達成するために温室効果ガスの排出量を抑えることに積極的に取り組むと共に、異常気象による気象災害から自らを守るため、ハザードマップの確認など日常的な準備と対策が必要となっています。

わがまちの環境を考える　問 環境課環境G ☎029-298-1111

持続可能な生活スタイルへ

執筆：環境省　環境カウンセラー　勝井明憲

SDGs（エスディージーズ）は、2030年を達成年度とする持続可能な社会を構築するための17の目標です。2015年に国連で採択された「誰一人として取り残さない」というスローガンのもと、世界中のすべての国・地域が取り組むべき目標です。現在、目標年度の半分を経過したところです。

地球上には、さまざまな思想、文化や歴史を持つ人びとや自然、ヒト以外の生き物が生活しています。持続可能な社会とは、そうした人々と自然が、公正公平に共生し、同世代はもとより将来世代にわたり持続する、地球にやさしい社会です。

私たちは今、物質的に豊かで利便性の高い生活スタイルを手に入れた結果、持続可能性が失われてしまいました。持続可能な社会を取り戻すための一つの目標がSDGsです。

国連の持続可能な開発ソリューション・ネットワークとドイツのベルテルスマン財団が、各国の取り組みについて年に一度作成している報告書によると、2021年度の達成度上位20か国のうち、19か国がヨーロッパの国で、1位はフィンランド、次にデンマーク、スウェーデン、ノルウェーと続いています。日本の順位は、今までで最も低い19位でした。

「質の高い教育をみんなに」や「産業と技術革新の基盤を作ろう」などは高い評価を受けていますが、「ジェンダー平等」「作る責任、使う責任」「気候変動」「海洋生態系」「陸上生態系」「パートナーシップ」では、最低の「レッド」評価でした。

新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活スタイルを変え、人と人のつながりを絶ち、人びとの間に社会的葛藤を生みました。また、ロシアのウクライナへの軍事侵攻は、世界規模での食料やエネルギーの危機と共に、物価高、インフレ、飢餓を招いただけでなく、東西間の緊張も高まっています。

持続可能な社会の実現には、地域が持続可能であること、そのためにもまず私たち一人一人が生活スタイルを見直し持続可能な形に変革していく必要があります。